

松平小学校と有福温泉小学校が3月末をもって閉校することになりました。4月に、松平小学校は郷田小学校と、有福温泉小学校は川波小学校と統合します。両校の児童たちが、通い慣れた校舎で過ごすのもあとわずか。児童たちは、学び舎を離れる寂しさがある一方で、統合先での新しい友達との出会いを楽しみにもしています。(22ページに閉校式のご案内)。



校歌にもうたわれるアユを放流



たくさん育ったサツマイモを手に地域の皆さんとパチリ



雑巾がけで廊下もピッカピカ



みんなで育てた米を脱穀



収穫した作物でお菓子作り

近くに中国地方一の大河江の川が流れ、周囲には山々の緑があふれる松平小学校。児童たちも豊かな自然に見守られながら、学校生活を送ってきました。

「若あゆはねる江川の」と校歌にうたわれ、通知票の名前も「わかあゆ」。江の川を泳ぐアユは同校にとってゆかりの深い魚です。5月には全校児童でアユの稚魚を江の川に放流しました。いつか大きくなって松平にまた戻ってくることを願って。

校舎近くの田畑では、もち米やサツマイモなどの農作物を育てました。全校児童でもち米を栽培。苗を育てる段階から稲刈り、脱穀まで約半年間にわたり手がけました。今年度は、統合先となる郷田小の児童も参加し、一緒に汗を流しました。

サツマイモは1年生と2年生がお世話係。秋になると顔よりも大きなおいもにもよち、笑顔で収穫しました。大切に育てた作物は地元イベント「川登の市」で販売。「わたしたちが作ったもち米はいかが」など、声をかけるとたくさんの方が買い求め、数十分で完売しました。

たくさんさんの活動ができたのも、地域の皆さんの協力があつたからでした。児童にとって地域の皆さんは、教科書では学べないことを教えてく

れる「先生」でした。毎年秋には学校で収穫祭を開催。児童たちは、作物を使った料理を地域の「先生」に食べてもらい、日々の指導に感謝しました。学校行事に長年携わった石川多美子さんは「私たちに色々な形で元気を与えてくれた松平小学校に『ありがとう』の気持ちです。子どもたちは、統合でふるさととの範囲が広くなり、大きく成長してくれるでしょう」と心境を語ります。

松平小での生活もあとわずか。でも友達や地域の人との思い出はこれからもずっと残ることでしょう。

(松平小と統合する)郷田小の友達からのメッセージ



松平小でのお米作り楽しかったよ。4月からは一緒にサッカー、バスケ、将棋などをして遊ぼうね。楽しみにしているよ。

有福温泉小学校

有福温泉小学校が開校したのは昭和31年。旧有福村が二分し、上有福と本明の2地区が江津市に編入されたためでした。以来50年以上にわたり有福温泉地区の子どもたちが成長する場となりました。

多いときには約1800人いた児童も現在では17人に。その分、「結束力はとても強く学年に関係なくまとまっています」と先生たちが認めるほど。昼休みになると、一目散に校庭へ。冬の寒さにも負けず、みんな楽しんでサッカーです。遊ぶのに男

子も女子も関係なし。みんなの楽しそうな声が校内に響きました。

平成5年から中国語の児童も通う同校では、中国の文化をみんな学んできました。江津市小中音楽会では毎年中国語の歌を披露。今年度は中国語版の「ドラえもん」の歌でした。練習を重ねるうちに、国籍に関係なくみんな流ちょうに歌えるように。音楽会で歌い終えると、会場から大きな拍手を受けました。「ミルキーウェイホールでみんなまで歌ったことが一番の思い出」と多くの児童が話しました。

4月にみんながのを楽しみにしているよ。勉強や遊びをして仲良くなるからね。中国の語もドラえもんの歌も教えてね。



(有福温泉小と統合する)川波小の友達からのメッセージ

校区内に被爆者の療養施設がある同校。長年平和学習に取り組んできました。毎年8月6日には療養施設での原爆死没者追悼式に参加。被爆後広島で最初に芽を出したアオギリの木を題材にした「アオギリの歌」を合唱し、死没者の冥福を祈りました。アオギリの木は同校にも2本立ち、平和を願っています。

昨年10月から川波小学校との交流学習が始まりました。2月7日、5年生の2人は平和学習について発表し、川波小の同級生と一緒に千羽鶴を折りました。最初はきこちなかつた2人も時間が経つうちに笑顔に。春にはみんなで折った千羽鶴を持って、広島へ修学旅行に行きます。



川波小との交流学习で千羽鶴を折りました



みんな大好きサッカー



テキパキ掃除で校舎をきれいに



昨年9月の有福温泉小最後の運動会で、地域の人と一緒に「55年間ありがとう」。

なぜ統合が必要なの？ ～子どもたちの将来のためなのです～

2月号のインタビューにも掲載していますが、教育委員会としては、中山間地域の小中学校の統廃合は、過疎化に更に拍車をかけることになることと認識しています。しかし、現在約2000人の市内小中学生は、6年後には1割程度減少する見通しで、その後も減少し続けることが確実視されています。

あすを担う子どもたちを育てるためには多くの友達との豊かな交友関係の場を提供することが最優先と考えられ、学校統合は避けて通れない課題なのです。